

心に教えの種蒔き

円応青年会 結成65周年記念式典

円応教

円応教(深田充啓教主)は11月4日午後零時半から、兵庫県丹波市の本部聖地・本殿礼拝所で円応青年会(赤銅聖治会長)の「結成65周年記念式典」を例月祭に併せて開催した。「輝け！ENSTEI！」合和の時代に新たな挑戦！がテーマ。

式典では舞台中央から青年会旗が入場した後、全国各教会の青年部旗47旗と少年部旗30旗が入場。続いて、献灯、献花、献饌、献茶の順に献上の儀を行った。

赤銅聖治会長を主導師とした「おとつめ」の後、青年信者体験発表に移り、下津井教会の大野友香さんが日参を通しての気づきや自身の思いを発表した。

この後、「第58回成人式」に移り、「深田千代子教祖の霊氣を宿す桜の木を親珠とした「円応桜」と記念品(記念品は代表が拝受)が、深田充啓教主から新成人一人ひとりに授与され、新成人を代表して、小教教会の曾根夕稀さんが謝辞を述べ、「明るい未来に向かって努力精進し、『世の中の道真』として働かせていただきます」と決意を述べた。

赤銅会長があいさつに立ち、問題に直面した時の心構えとして、敬虔な心の大切さとしての出来事を信じ、感謝することの大切さを訴えた。

この後、第27期の円応青年会委員が紹介され、み教えをもとに、世の中の道真として、「一人でも多くの青少年と御教祖様とのご縁をおつなぎできるよう、青少年育成に精一杯邁進させていただきます」と力強く決意を述べた。



赤銅会長の「おお我ら」の力強い掛け声に、参加者が「円応青年！」と応えた

生活即宗教の実践を

解脱金剛71年祭

解脱会

解脱会(本部東京・四谷、岡野英祥法主)は11月4日正午から、京都市東山区の真言宗泉涌寺派総本山の真言宗泉涌寺で「解脱金剛71年祭」(岡野聖憲法主)を営んだ。

法要は舍利殿に導師の4日正午から、京都市東山区の真言宗泉涌寺派総本山の真言宗泉涌寺で「解脱金剛71年祭」(岡野聖憲法主)を営んだ。

法要は舍利殿に導師の4日正午から、京都市東山区の真言宗泉涌寺派総本山の真言宗泉涌寺で「解脱金剛71年祭」(岡野聖憲法主)を営んだ。



解脱会(本部東京・四谷、岡野英祥法主)は11月4日正午から、京都市東山区の真言宗泉涌寺派総本山の真言宗泉涌寺で「解脱金剛71年祭」(岡野聖憲法主)を営んだ。

解脱会(本部東京・四谷、岡野英祥法主)は11月4日正午から、京都市東山区の真言宗泉涌寺派総本山の真言宗泉涌寺で「解脱金剛71年祭」(岡野聖憲法主)を営んだ。

法要は舍利殿に導師の4日正午から、京都市東山区の真言宗泉涌寺派総本山の真言宗泉涌寺で「解脱金剛71年祭」(岡野聖憲法主)を営んだ。

すべてを成仏させる

創立記念日並びに妙愛上人27回忌報恩会

現證宗



本尊左の初代講主・藤井妙愛上人の遺影に向かい、報恩謝徳の読経供養

現證宗日蓮主義弘立講(上村日正講主)は11月7日午前11時から、三重県鈴鹿市の本部題目堂で「創立記念日並びに妙愛上人27回忌報恩会」を厳修した。

参列者が太鼓の音に合わせて拍子木を叩き、題目を唱える中、上村日正講主と脇導師が入座。読経供養が行われ、会員各家先祖代々の追善回向が営まれた。

この後、上村講主が本尊左の初代講主・藤井妙愛上人の遺影前に進み、報恩謝徳の読経供養を行った。上村講主と脇導師が焼香した

笑顔で教えを実践

御神尊感謝大祭 善隣教



「ひよっとこサンパ」による信徒総踊りで、聖堂内は歓喜に包まれた

善隣教(久道道長教主)は10月19、20日に、福岡県筑紫野市の本庁聖堂で「御神尊感謝大祭」を行った。

大祭は、19日(昭和52年)に帰郷し、神と一体になった久道道長教主(御神尊)への感謝を捧げるもの。

19日午後6時から、「全国御行場」の中心である原田行場で「大祭前夜祭」が行われた。教祖が帰郷後、22日間の「幽園行」を経て「神如幽園自在之神」として甦ったこと由来する「幽園行完結妙法之御儀」を営んだ後、大祭御神火を採火、灯籠に点火し、灯籠行列を組み、本庁まで運んだ。

20日は午前10時、開会宣言の後、聖堂に教祖旗が入

観音の神力と救い説く

大観音まつり 眞生会

眞生会

眞生会(田中庸(会長)は10月20日午前10時半から、岐阜市彦坂の総本山眞生寺で「大観音まつり」を行った。

はじめに本堂に導師の田中庸(会長)と式衆が入座し、「感謝の祈り」を捧げ、「観音文」を奏した。

この後、本堂前より子と青年らの奉献隊を先頭に、導師と式衆が、秋晴れのもと金色に輝く眞生大観音前まで参進した。

大観音前では、ご詠歌隊が「観音大慈御詠歌」を奉納。続いて「眞生大観



眞生会(田中庸(会長)は10月20日午前10時半から、岐阜市彦坂の総本山眞生寺で「大観音まつり」を行った。

「円応青年」を3回繰り返す。銀色のテープが打ち上げられ、力強い喚声と共に、返した。

「おとつめ」に立った久教主は「御神尊様がご遺言として言われた『人生いりうりありますけれど笑う』を忘れずに、常に祈りと教えを實踐してまいりましょう」と述べた。

最後に参加者全員で善隣教の証と「幽園行参拝者名簿」が献上された。

力久道道長教主と久美雪継主が臨殿して祭文を奏上。参列者が一心に御聖經を唱え、「嗚呼御神尊様」と開題を呼び掛ける中、御神尊像の扉が開かれ、参列者は「やります！やります！やります！」と連呼し、御神尊像を拝した。教主が五色幣、継主が大水玉を奉持して満堂場内を一巡、久教主が参列者に向かって御慈光を照射した。

ひたすら神様に奉仕

御本宮大祭 玉光神社

玉光神社

玉光神社(本部東京・三鷹市、本山一博宮司)は10月22、23日に、香川県小豆島の本宮で「御本宮大祭」を厳修した。

大祭は、1932(昭和7)年、小豆島・双子の浦で、本山キヌエ教祖に「玉光大神」が降臨したことから、59(昭和34)年に降臨の地に程近い土庄町北山の中山で「小豆島御本宮」を建立、以後、毎年10月に大祭を厳修している。

22日午後1時から前日祭を厳修。拝殿で「御降神願」などの祭儀を行った後、本山一博宮司と齋員、信徒から大勢の参拝者が訪れ、多くの参拝者が宝塔広場が埋め尽くされる中、宝塔奉安殿が本山宮司に鍵を手渡し、開扉で開式。献花・献灯の儀に続いて、「日」の文字の青年部の御旗を先頭に佐原慶治会長が入塔。続いて

「おとつめ」に立った久教主は「御神尊様がご遺言として言われた『人生いりうりありますけれど笑う』を忘れずに、常に祈りと教えを實踐してまいりましょう」と述べた。

最後に参加者全員で善隣教の証と「幽園行参拝者名簿」が献上された。

力久道道長教主と久美雪継主が臨殿して祭文を奏上。参列者が一心に御聖經を唱え、「嗚呼御神尊様」と開題を呼び掛ける中、御神尊像の扉が開かれ、参列者は「やります！やります！やります！」と連呼し、御神尊像を拝した。教主が五色幣、継主が大水玉を奉持して満堂場内を一巡、久教主が参列者に向かって御慈光を照射した。

玉光神社(本部東京・三鷹市、本山一博宮司)は10月22、23日に、香川県小豆島の本宮で「御本宮大祭」を厳修した。

大祭は、1932(昭和7)年、小豆島・双子の浦で、本山キヌエ教祖に「玉光大神」が降臨したことから、59(昭和34)年に降臨の地に程近い土庄町北山の中山で「小豆島御本宮」を建立、以後、毎年10月に大祭を厳修している。

22日午後1時から前日祭を厳修。拝殿で「御降神願」などの祭儀を行った後、本山一博宮司と齋員、信徒から大勢の参拝者が訪れ、多くの参拝者が宝塔広場が埋め尽くされる中、宝塔奉安殿が本山宮司に鍵を手渡し、開扉で開式。献花・献灯の儀に続いて、「日」の文字の青年部の御旗を先頭に佐原慶治会長が入塔。続いて

玉光神社(本部東京・三鷹市、本山一博宮司)は10月22、23日に、香川県小豆島の本宮で「御本宮大祭」を厳修した。

大祭は、1932(昭和7)年、小豆島・双子の浦で、本山キヌエ教祖に「玉光大神」が降臨したことから、59(昭和34)年に降臨の地に程近い土庄町北山の中山で「小豆島御本宮」を建立、以後、毎年10月に大祭を厳修している。

22日午後1時から前日祭を厳修。拝殿で「御降神願」などの祭儀を行った後、本山一博宮司と齋員、信徒から大勢の参拝者が訪れ、多くの参拝者が宝塔広場が埋め尽くされる中、宝塔奉安殿が本山宮司に鍵を手渡し、開扉で開式。献花・献灯の儀に続いて、「日」の文字の青年部の御旗を先頭に佐原慶治会長が入塔。続いて

玉光神社(本部東京・三鷹市、本山一博宮司)は10月22、23日に、香川県小豆島の本宮で「御本宮大祭」を厳修した。

大祭は、1932(昭和7)年、小豆島・双子の浦で、本山キヌエ教祖に「玉光大神」が降臨したことから、59(昭和34)年に降臨の地に程近い土庄町北山の中山で「小豆島御本宮」を建立、以後、毎年10月に大祭を厳修している。

22日午後1時から前日祭を厳修。拝殿で「御降神願」などの祭儀を行った後、本山一博宮司と齋員、信徒から大勢の参拝者が訪れ、多くの参拝者が宝塔広場が埋め尽くされる中、宝塔奉安殿が本山宮司に鍵を手渡し、開扉で開式。献花・献灯の儀に続いて、「日」の文字の青年部の御旗を先頭に佐原慶治会長が入塔。続いて

法華経に出会えた感動胸に

宝塔供養大祭 妙道会教団

妙道会教団

妙道会教団(本部大阪・市天王寺区、佐原慶治会長)は、11月3日午前10時半から、滋賀県大津市の聖地で「宝塔供養大祭」を厳修した。

少し肌寒さを感じる秋晴れとなったこの日、全国各地から大勢の参拝者が訪れ、多くの参拝者が宝塔広場が埋め尽くされる中、宝塔奉安殿が本山宮司に鍵を手渡し、開扉で開式。献花・献灯の儀に続いて、「日」の文字の青年部の御旗を先頭に佐原慶治会長が入塔。続いて

妙道会教団(本部大阪・市天王寺区、佐原慶治会長)は、11月3日午前10時半から、滋賀県大津市の聖地で「宝塔供養大祭」を厳修した。

少し肌寒さを感じる秋晴れとなったこの日、全国各地から大勢の参拝者が訪れ、多くの参拝者が宝塔広場が埋め尽くされる中、宝塔奉安殿が本山宮司に鍵を手渡し、開扉で開式。献花・献灯の儀に続いて、「日」の文字の青年部の御旗を先頭に佐原慶治会長が入塔。続いて

妙道会教団(本部大阪・市天王寺区、佐原慶治会長)は、11月3日午前10時半から、滋賀県大津市の聖地で「宝塔供養大祭」を厳修した。

少し肌寒さを感じる秋晴れとなったこの日、全国各地から大勢の参拝者が訪れ、多くの参拝者が宝塔広場が埋め尽くされる中、宝塔奉安殿が本山宮司に鍵を手渡し、開扉で開式。献花・献灯の儀に続いて、「日」の文字の青年部の御旗を先頭に佐原慶治会長が入塔。続いて



妙道会教団(本部大阪・市天王寺区、佐原慶治会長)は、11月3日午前10時半から、滋賀県大津市の聖地で「宝塔供養大祭」を厳修した。

妙道会教団(本部大阪・市天王寺区、佐原慶治会長)は、11月3日午前10時半から、滋賀県大津市の聖地で「宝塔供養大祭」を厳修した。

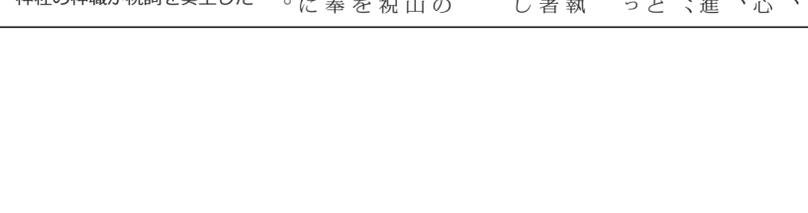
少し肌寒さを感じる秋晴れとなったこの日、全国各地から大勢の参拝者が訪れ、多くの参拝者が宝塔広場が埋め尽くされる中、宝塔奉安殿が本山宮司に鍵を手渡し、開扉で開式。献花・献灯の儀に続いて、「日」の文字の青年部の御旗を先頭に佐原慶治会長が入塔。続いて

喜びとして献納継続誓う 松緑神道大和山

松緑神道大和山(本部山形県平内町、田澤清喜教主)は10月27日午前10時から、滋賀県大津市の天台宗総本山比叡山延暦寺の根本中堂で「不滅の法灯」への「第35回大和山献油式」を厳修した。

一俵を照らす会館前から先役を先頭に、奉納目録200足、運筆等を奉納することを報告し、森川座主に目録を手渡し、これを「受書」を奉読し、田澤教主に手渡した。

この後、式衆と田澤教主らが内陣に移動し、「精油加持」が行われる中、「不滅の法灯への」灌漑の儀に移った。田澤教主「お言葉」を述べ、田澤教主「根本中堂



万国忠霊塔慰霊大祭 七曜会

古今東西の戦没者に祈り

万国忠霊塔慰霊大祭 七曜会

七曜会

七曜会(本部東京都渋谷区、眞塩陽一郎教主)は11月3日午前1時から、神奈川県伊勢原市の大山阿夫利神社境内の万国忠霊塔で「第61回万国忠霊塔慰霊大祭」を厳修した。

万国忠霊塔は、溝上恵照初代教主が1958(昭和33)年に古今東西の戦没者を慰霊するために建立。毎月慰霊供養を行い、建立記

七曜会(本部東京都渋谷区、眞塩陽一郎教主)は11月3日午前1時から、神奈川県伊勢原市の大山阿夫利神社境内の万国忠霊塔で「第61回万国忠霊塔慰霊大祭」を厳修した。

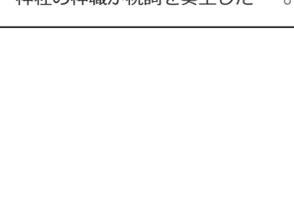
万国忠霊塔は、溝上恵照初代教主が1958(昭和33)年に古今東西の戦没者を慰霊するために建立。毎月慰霊供養を行い、建立記

七曜会(本部東京都渋谷区、眞塩陽一郎教主)は11月3日午前1時から、神奈川県伊勢原市の大山阿夫利神社境内の万国忠霊塔で「第61回万国忠霊塔慰霊大祭」を厳修した。

万国忠霊塔は、溝上恵照初代教主が1958(昭和33)年に古今東西の戦没者を慰霊するために建立。毎月慰霊供養を行い、建立記

七曜会(本部東京都渋谷区、眞塩陽一郎教主)は11月3日午前1時から、神奈川県伊勢原市の大山阿夫利神社境内の万国忠霊塔で「第61回万国忠霊塔慰霊大祭」を厳修した。

万国忠霊塔は、溝上恵照初代教主が1958(昭和33)年に古今東西の戦没者を慰霊するために建立。毎月慰霊供養を行い、建立記



万国忠霊塔慰霊大祭 七曜会

「個」への信仰継承を考える

教団付置研究所懇話会 第18回年次大会

教団付置研究所懇話会は10月30日午前10時から、東京都杉並区の立正佼成会法輪閣で「個」から「個」への信仰継承をテーマにした第18回年次大会を開催した。川端健之立正佼成会理事長の開会あいさつ後、川本貴子中央学術研究所所長が「個」について解説。信仰の継承は各教団に共通する重要課題であるとして、庭野平和財団が行った「日本

人の宗教団体への関与・認知・評価の20年」調査結果に触れ、「災害支援等の社会貢献」も評価が高まった面もあるが、全体的に宗教や信仰が薄れている現状を指摘。こうした状況を踏まえ、組織から「個」への関与を促した。

最初に、オリエンタル研究所の石井祥裕氏が「神への参入としての信仰継承」キリスト教入信の秘跡の核心」をテーマに発題。信者が真のキリスト者になるまでの段階的な宗教実践の重要性を説き、「秘跡(聖典)」について話し、個人とキリストとの出会い、宣教など、信仰の基となる「個」の成長過程と教会形成における「秘跡」の意義を解説した。

4つの研究所が信仰継承について発表

庭野平和財団(庭野浩士理事長)は11月5日午後1時から、東京都中野区の中野サンパラーゼでシンポジウム「共同体に溶け込んでいく文化としての宗教の役割」を開催した。

シンポジウムは、同財団が宗教の役割を再考する「GNH」に関するシンポジウムを開催した。

庭野平和財団(庭野浩士理事長)は11月5日午後1時から、東京都中野区の中野サンパラーゼでシンポジウム「共同体に溶け込んでいく文化としての宗教の役割」を開催した。

シンポジウムは、同財団が宗教の役割を再考する「GNH」に関するシンポジウムを開催した。



庭野平和財団(庭野浩士理事長)は11月5日午後1時から、東京都中野区の中野サンパラーゼでシンポジウム「共同体に溶け込んでいく文化としての宗教の役割」を開催した。

シンポジウムは、同財団が宗教の役割を再考する「GNH」に関するシンポジウムを開催した。

庭野平和財団(庭野浩士理事長)は11月5日午後1時から、東京都中野区の中野サンパラーゼでシンポジウム「共同体に溶け込んでいく文化としての宗教の役割」を開催した。

シンポジウムは、同財団が宗教の役割を再考する「GNH」に関するシンポジウムを開催した。

宗援連と共催 災害時の宗教の役割問う

信仰医連 第3回大会

「信仰をもつ医療者の連帯のための会(信仰医連)」代表加藤眞三・慶應義塾大学(加藤)は11月17日午前10時から、東京都港区の慶應義塾大学三田キャンパスで「第3回大会」を開催した。今回は「災害時に果たす役割」をテーマに、宗教者災害支援連絡会(宗援連)代表加藤眞三・上智大学特任教授と共催した。

加藤眞三代表が大会趣旨を説明し、「信仰を持つ医療者の連帯による新しい貢献」(「神仏や霊魂の存在を仮想的な前提として医療を語り合う」)など信仰医連の役割を解説した。

基調講演に移り、前岩沼市長の井口経明氏が発題。市長として対応した東日本

大震災で避難所や仮設住宅、集団移転時に地域コミュニティを重視して孤立死を防いだ事例を紹介し、被災地の「10年希望の丘」完成に至る経緯などを語った。続いて東北大学大学院講義部学術部長の藤田浩二氏が「災害時の宗教の役割」をテーマに、宗援連代表加藤眞三・上智大学特任教授と共催した。

加藤眞三代表が大会趣旨を説明し、「信仰を持つ医療者の連帯による新しい貢献」(「神仏や霊魂の存在を仮想的な前提として医療を語り合う」)など信仰医連の役割を解説した。

基調講演に移り、前岩沼市長の井口経明氏が発題。市長として対応した東日本

庭野平和財団(庭野浩士理事長)は11月5日午後1時から、東京都中野区の中野サンパラーゼでシンポジウム「共同体に溶け込んでいく文化としての宗教の役割」を開催した。

シンポジウムは、同財団が宗教の役割を再考する「GNH」に関するシンポジウムを開催した。

庭野平和財団(庭野浩士理事長)は11月5日午後1時から、東京都中野区の中野サンパラーゼでシンポジウム「共同体に溶け込んでいく文化としての宗教の役割」を開催した。

シンポジウムは、同財団が宗教の役割を再考する「GNH」に関するシンポジウムを開催した。

庭野平和財団(庭野浩士理事長)は11月5日午後1時から、東京都中野区の中野サンパラーゼでシンポジウム「共同体に溶け込んでいく文化としての宗教の役割」を開催した。

シンポジウムは、同財団が宗教の役割を再考する「GNH」に関するシンポジウムを開催した。

庭野平和財団(庭野浩士理事長)は11月5日午後1時から、東京都中野区の中野サンパラーゼでシンポジウム「共同体に溶け込んでいく文化としての宗教の役割」を開催した。

シンポジウムは、同財団が宗教の役割を再考する「GNH」に関するシンポジウムを開催した。

新宗連の宗教協力活動を紹介

神奈川県宗教連盟 第78回宗教文化講座

神奈川県宗教連盟(古川勉理事長)は10月29日午後2時から、神奈川県横浜市で「第78回宗教文化講座」を開催した。後援は神奈川県、同連盟は神道・仏教・キリスト教・教派神道・新宗教などで構成する団体で、1997(昭和72)年以降、宗教の相互理解を深め、広く一般への宗教文化の普及を高めることを目的として「宗教文化講座」を開催してきた。同連盟は、新宗連から神奈川県協議会(土田均議長)が参加している。

今回は、「宗教協力」(世界平和に向けて)をテーマに、新宗連事務局員の武藤亮飛氏、同事務局長の大滝晃史氏、同評議員で神奈川県

協賛会副議長の古川謙一氏(14氏)が戦争犠牲者の慰霊とともに、「絶対非戦」を誓い、「世界平和」を願う式典であるとして、古川氏自身も新日本新宗教青年会連盟(新宗連青年会)事務局長として携わった第50回「戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」(8・14式典)「平和推進事業」(2015年)を中心に解説。その中で毎年、国立・千鳥ヶ淵戦没者墓苑で行う「8・15」を前に参加した新宗連青年会の「東南アジア青年平和使節団」での経験を話し、タイを訪れた際の仏教僧と共に先の大戦の犠牲者に対する慰霊を行ったこと、触れ、「宗教協力に感謝した。宗教協力多発する交通事故の犠牲者の慰霊と交通安全啓蒙する内容の式典を開催したことが始まりで、今回で50

目黒区で「第50回世界平和の祈りと慰霊式」開催

立正佼成会会員による奉獻

2004(平成16)年からは事故・災害・戦争などの犠牲者、犯罪被害者や自殺者の慰霊並びに死者の天竺を祈る「世界平和を祈る集い」として開催。13(同20)年から3年間は自殺防止講演会も集いの中で行った。

第50回式典は、天理教目黒支部の熊本尚彦支部長が開会あいさつを述べた後、目黒神楽会による修祓式、天理教目黒支部の一陽気で、立正佼成会目黒教会の会員による奉獻、平和の祈り、カトリックサレジオ会による聖歌合唱が行われた。続いて目黒区仏教連合会による読経供養のなか、参加者代表らが献花を行った。

主催の各種団体代表者懇話会(代表加藤眞三)は、浄土宗(大住職)が主催する「第50回世界平和の祈りと慰霊式」が10月19日午後5時半から、東京都目黒区サレジオ教会大聖堂で、立正佼成会目黒教会の会員による奉獻、平和の祈り、カトリックサレジオ会による聖歌合唱が行われた。続いて目黒区仏教連合会による読経供養のなか、参加者代表らが献花を行った。

共同体における宗教を再考

GNHに関するシンポジウム開催

庭野平和財団(庭野浩士理事長)は11月5日午後1時から、東京都中野区の中野サンパラーゼでシンポジウム「共同体に溶け込んでいく文化としての宗教の役割」を開催した。

シンポジウムは、同財団が宗教の役割を再考する「GNH」に関するシンポジウムを開催した。

庭野平和財団(庭野浩士理事長)は11月5日午後1時から、東京都中野区の中野サンパラーゼでシンポジウム「共同体に溶け込んでいく文化としての宗教の役割」を開催した。

シンポジウムは、同財団が宗教の役割を再考する「GNH」に関するシンポジウムを開催した。

庭野平和財団(庭野浩士理事長)は11月5日午後1時から、東京都中野区の中野サンパラーゼでシンポジウム「共同体に溶け込んでいく文化としての宗教の役割」を開催した。

シンポジウムは、同財団が宗教の役割を再考する「GNH」に関するシンポジウムを開催した。

庭野平和財団(庭野浩士理事長)は11月5日午後1時から、東京都中野区の中野サンパラーゼでシンポジウム「共同体に溶け込んでいく文化としての宗教の役割」を開催した。

シンポジウムは、同財団が宗教の役割を再考する「GNH」に関するシンポジウムを開催した。

庭野平和財団(庭野浩士理事長)は11月5日午後1時から、東京都中野区の中野サンパラーゼでシンポジウム「共同体に溶け込んでいく文化としての宗教の役割」を開催した。

シンポジウムは、同財団が宗教の役割を再考する「GNH」に関するシンポジウムを開催した。

庭野平和財団(庭野浩士理事長)は11月5日午後1時から、東京都中野区の中野サンパラーゼでシンポジウム「共同体に溶け込んでいく文化としての宗教の役割」を開催した。

シンポジウムは、同財団が宗教の役割を再考する「GNH」に関するシンポジウムを開催した。

心身の安らぎを願う

目黒区で「第50回世界平和の祈りと慰霊式」開催

立正佼成会会員による奉獻

2004(平成16)年からは事故・災害・戦争などの犠牲者、犯罪被害者や自殺者の慰霊並びに死者の天竺を祈る「世界平和を祈る集い」として開催。13(同20)年から3年間は自殺防止講演会も集いの中で行った。

第50回式典は、天理教目黒支部の熊本尚彦支部長が開会あいさつを述べた後、目黒神楽会による修祓式、天理教目黒支部の一陽気で、立正佼成会目黒教会の会員による奉獻、平和の祈り、カトリックサレジオ会による聖歌合唱が行われた。続いて目黒区仏教連合会による読経供養のなか、参加者代表らが献花を行った。

天皇代替わりをテーマに 政教分離の会 公開学習会

6(平成28)年の「天皇陛下の御即位」をめぐり、政教分離の会(代表幹事木村庸五)は、11月11日午後6時半から、東京都千代田区千代田の御茶屋水クリスタルセンターで公開学習会を開催した。

「天皇代替わり」をテーマに、皇教の残存」をテーマに開催した。学習会は、日本キリスト教協議会(NCC)靖国神社問題委員会(天皇代替わり問題連絡委員会)と併せて開かれた。

講師の横田耕一氏(九州大学名誉教授・憲法学者)が、象徴天皇制について、201

「マインリテの人権を護る」

今村 嗣夫 著

表題にある「マインリテの人権」とは、多数決でも奪うことのできない少数者の人権を指す。著者は弁護士として、信者の自由・政教分離が争点となった靖国訴訟や自衛官徴兵訴訟など、少数者の人権を護るため、一連の訴訟、拒否訴訟、また在日韓国・朝鮮人を管理するための指針「押なつ」拒否訴訟、日本の戦争責任とも関わる韓国・朝鮮人BC級戦犯訴訟など、少数者の人権、平和主義を護るため、50年にわたる法廷に立ち続けた。

著者は「中学生や高校生にも伝えよう」として編んだ『マインリテの人権を護る』が、本書である。本書は、日本に仏教を伝えるための歴史を、隣国として相互の交流史ははるかに長い歴史がある。

本書は、日本に仏教を伝えるための歴史を、隣国として相互の交流史ははるかに長い歴史がある。

「マインリテの人権を護る」

今村 嗣夫 著

表題にある「マインリテの人権」とは、多数決でも奪うことのできない少数者の人権を指す。著者は弁護士として、信者の自由・政教分離が争点となった靖国訴訟や自衛官徴兵訴訟など、少数者の人権を護るため、一連の訴訟、拒否訴訟、また在日韓国・朝鮮人を管理するための指針「押なつ」拒否訴訟、日本の戦争責任とも関わる韓国・朝鮮人BC級戦犯訴訟など、少数者の人権、平和主義を護るため、50年にわたる法廷に立ち続けた。

著者は「中学生や高校生にも伝えよう」として編んだ『マインリテの人権を護る』が、本書である。本書は、日本に仏教を伝えるための歴史を、隣国として相互の交流史ははるかに長い歴史がある。

本書は、日本に仏教を伝えるための歴史を、隣国として相互の交流史ははるかに長い歴史がある。

即位儀式は憲法違反

キリスト教が署名提出

11月14日から行われる「大嘗祭」に先立つ12日午後、プロテスタントやカトリックなどのキリスト教団体の代表者が、安倍晋三首相宛ての「即位式・大嘗祭を国事行為として行わないでください」とする署名を、内閣府に提出した。

署名呼びかけ文では、即位礼正殿の儀や大嘗祭など、明確な神道行事に国が関わり公金を支出し、国事行為または公的行事として行われることは憲法の「国民主権」「政教分離」「憲法尊重擁護義務」に違反すると訴えている。署名呼びかけ文は、NCC靖国神社問題委員会(天皇代替わり問題連絡委員会)と併せて開かれた。

講師の横田耕一氏(九州大学名誉教授・憲法学者)が、象徴天皇制について、201